第３章　医療の提供実績

第３章　医療の提供実績

本章では、病院における患者の入院状況や急性期医療の提供状況を示す。

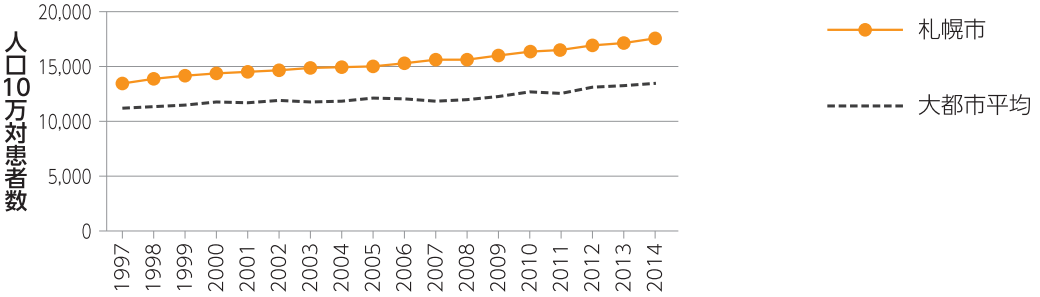
1　病院における患者の入院状況

(1)　新入院患者数

ア　一般病床

一般病床[35]の人口10万人当たりの新入院患者数は1997年以降増加し続けており、2014年の大都市平均では13,313.9人、札幌市では17,421.4人となっている。

図 3-1　人口 10 万人当たりの一般病床の新入院患者数の推移

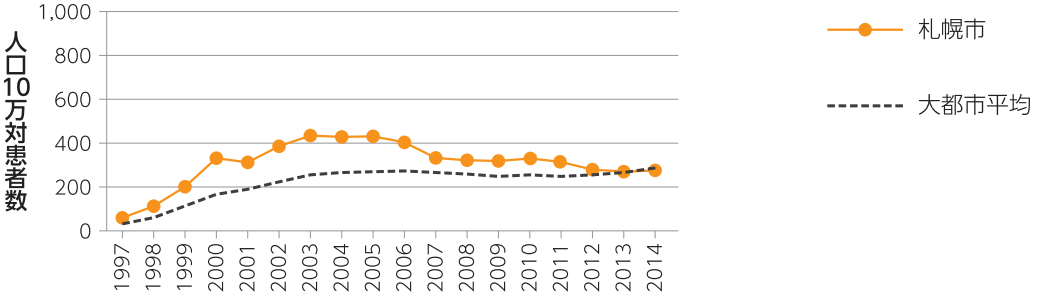


（厚生労働省「病院報告」）

イ　療養病床

療養病床[36]の人口10万人当たりの新入院患者数は、大都市平均では緩やかな増加傾向にあり、2014年には289.6人となった。札幌市では2003年をピークにその後は減少傾向にあり、2014年には283.7人となった。

図 3-2　人口 10 万人当たりの療養病床の新入院患者数の推移



（厚生労働省「病院報告」）

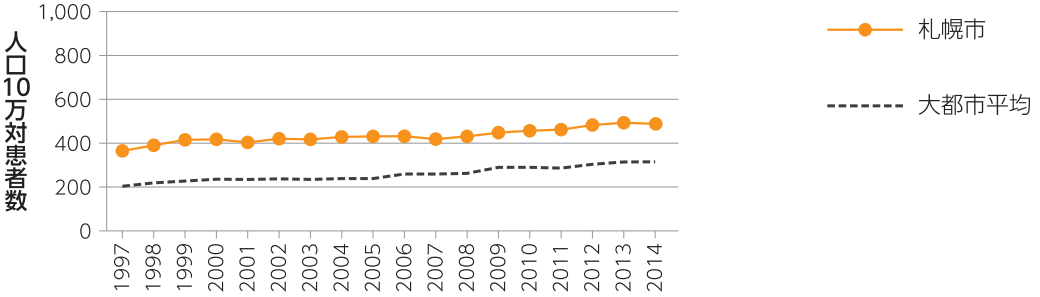
35　2000年までは「その他の病床」のうち「療養型病床群」を除いたもの、2001年から2003年までは「一般病床」及び「経過的旧その他の病床（経過的旧療養型病床群を除く。）」

36　2000年までは「療養型病床群」、2001年から2003年までは「療養病床」及び「経過的旧療養型病床群」

ウ　精神病床

精神病床の人口10万人当たりの新入院患者数は1997年から増加傾向を示しており、2014年の大都市平均では314.5人、札幌市では481.8人となっている。

図 3-3　人口 10 万人当たりの精神病床の新入院患者数の推移

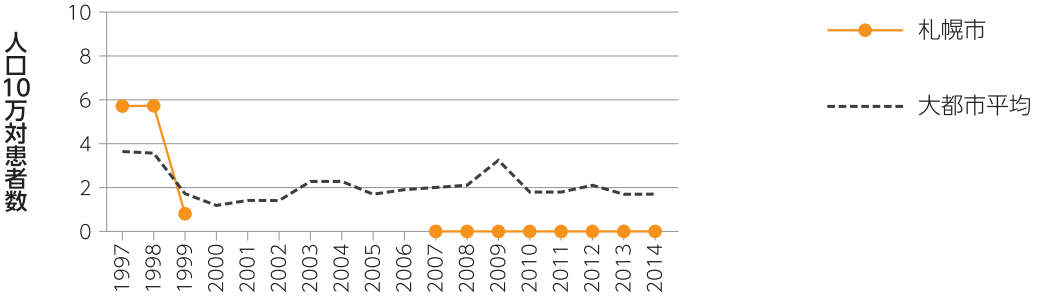


（厚生労働省「病院報告」）

エ　感染症病床

感染症病床[37]の人口10万人当たりの新入院患者数は、大都市平均では2人前後で推移し、2014年には1.7人となった。札幌市では2000年以降0人となっている[38]。

図 3-4　人口 10 万人当たりの感染症病床の新入院患者数の推移

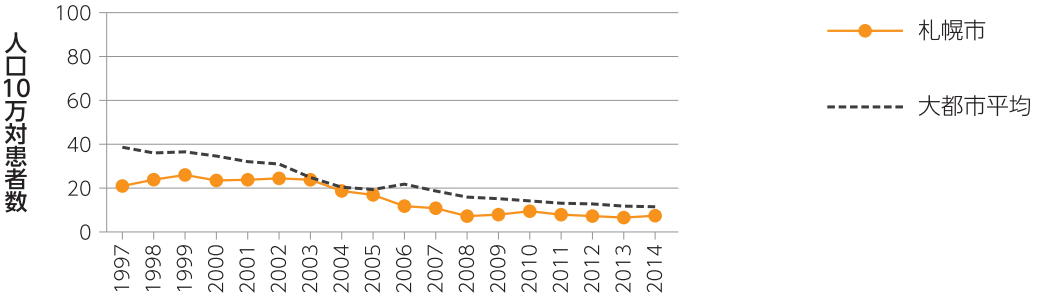


（厚生労働省「病院報告」）

オ　結核病床

結核病床の人口10万人当たりの新入院患者数は減少傾向にあり、2014年の大都市平均では11.8人、札幌市では7.7人となっている。

図 3-5　人口 10 万人当たりの結核病床の新入院患者数の推移



（厚生労働省「病院報告」）

37　1998年までは「伝染病床」（以下本章において同じ。）

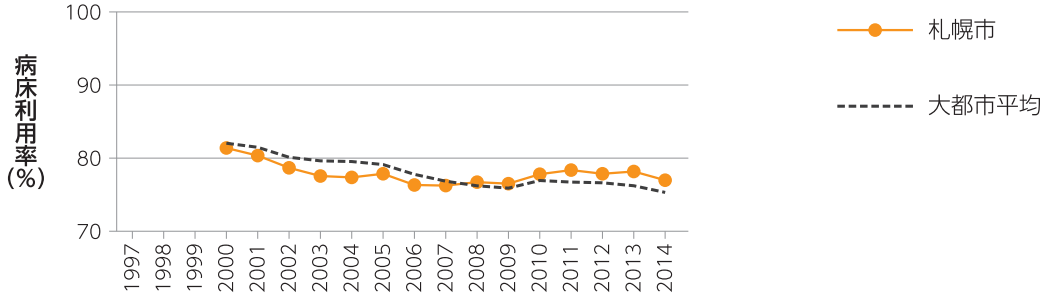
38　札幌市では1999年3月に伝染病床が0床となり、2007年5月に感染症病床が設置された。病院報告は当該年の1月1日から12月31日までの合計値を示すため、1999年は1月1日から3月31日まで、2007年は5月1日から12月31日までの合計値である。

(2) 病床利用率[39]

ア　一般病床

一般病床[40]の病床利用率は緩やかな減少傾向にあり、2014年の大都市平均では75.4%、札幌市では77.0%となっている。

図 3-6　一般病床の病床利用率の推移

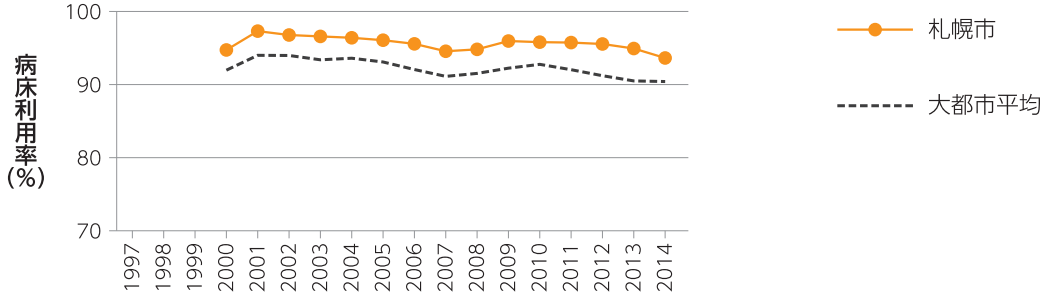


(厚生労働省「病院報告」)

イ　療養病床

療養病床[41]の病床利用率は2000年以降ほぼ横ばいであり、2014年の大都市平均では90.3%、札幌市では93.6%となっている。

図 3-7　療養病床の病床利用率の推移

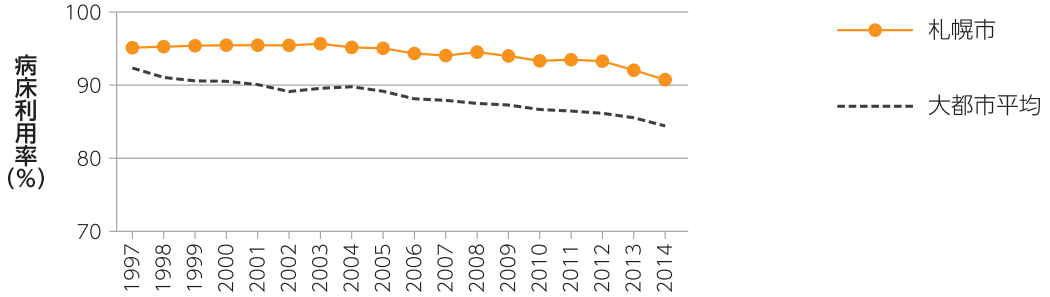


(厚生労働省「病院報告」)

ウ　精神病床

精神病床の病床利用率は近年減少傾向にあり、2014年の大都市平均では84.3%、札幌市では90.8%となっている。

図 3-8　精神病床の病床利用率の推移



(厚生労働省「病院報告」)

39 1999年までは1日平均在院患者数／当該年の6月末病床数×100、2000年からは月間在院患者延数の1月～12月の合計／(月間日数×月末病床数) の1月～12月の合計×100

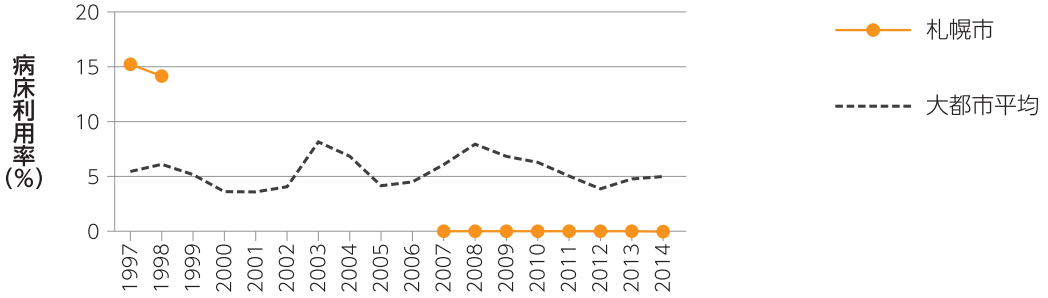
40 2000年は「その他の病床」のうち「療養型病床群」を除いたもの、2001年から2003年までは「一般病床」及び「経過的旧その他の病床（経過的旧療養型病床群を除く。）」

41 2000年は「療養型病床群」、2001年から2003年までは「療養病床」及び「経過的旧療養型病床群」

エ　感染症病床

感染症病床の病床利用率は、大都市平均では5%前後で推移し、2014年には5.1%となった。札幌市では、市立札幌病院に感染症病床が8床設置された2007年以降0%となっている[42]。

図 3-9　感染症病床の病床利用率の推移

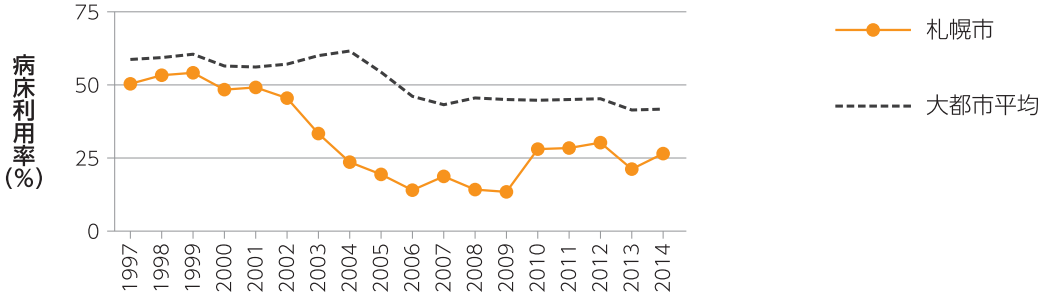


（厚生労働省「病院報告」）

オ　結核病床

結核病床の病床利用率は、大都市平均では50%前後で推移し、2014年には41.4%となった。札幌市では2002年まで50%前後で推移した後、年によって変動はあるものの減少し、2014年には26.6%となった。

図 3-10　結核病床の病床利用率の推移



（厚生労働省「病院報告」）

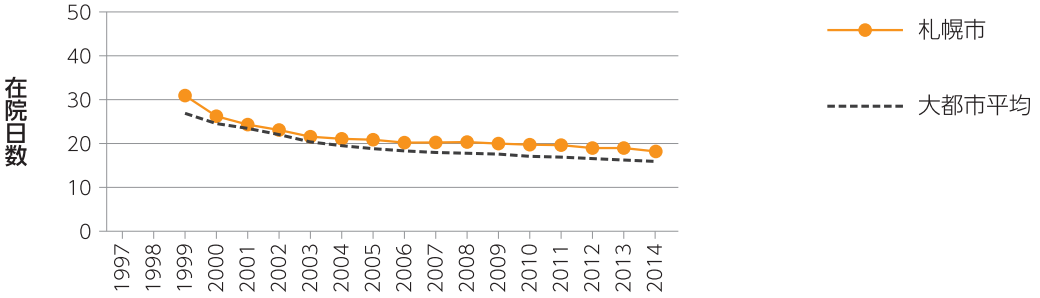
42　札幌市では1999年3月に伝染病床が0床となり、2007年5月に感染症病床が設置された。1999年の病床利用率は6月末病床数で除算するため計算できない。

(3) 平均在院日数[43]

ア　一般病床

一般病床[44]の平均在院日数は緩やかに減少し、2014年の大都市平均では16.0日、札幌市では18.3日となっている。

図 3-11　一般病床の平均在院日数の推移

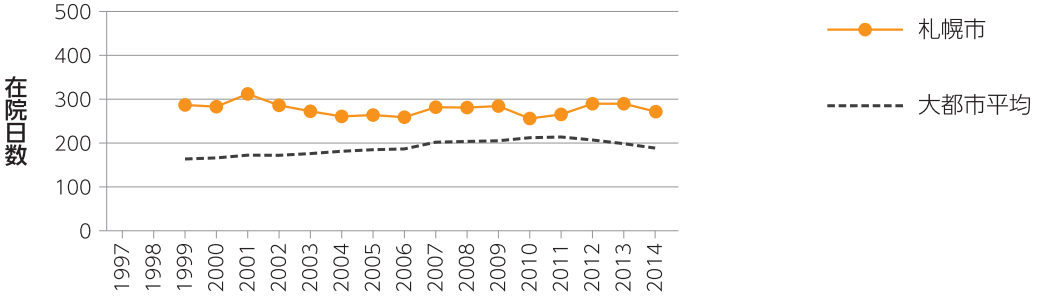


（厚生労働省「病院報告」）

イ　療養病床

療養病床[45]の平均在院日数はほぼ横ばいであり、2014年の大都市平均では187.5日、札幌市では273.1日となっている。

図 3-12　療養病床の平均在院日数の推移

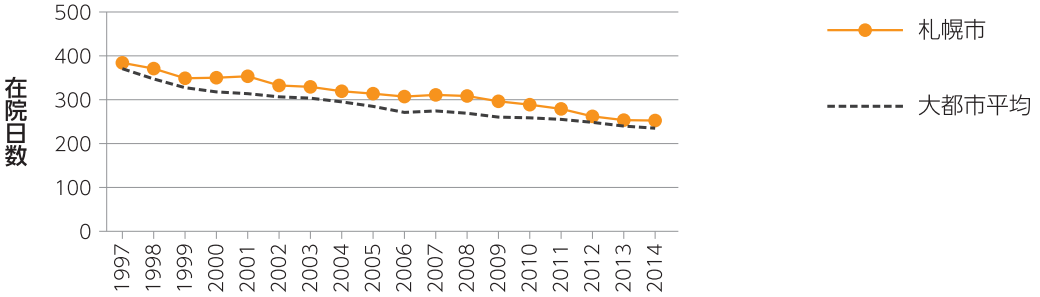


（厚生労働省「病院報告」）

ウ　精神病床

精神病床の平均在院日数は1997年以降徐々に減少し、2014年の大都市平均では233.2日、札幌市では254.2日となっている。

図 3-13　精神病床の平均在院日数の推移



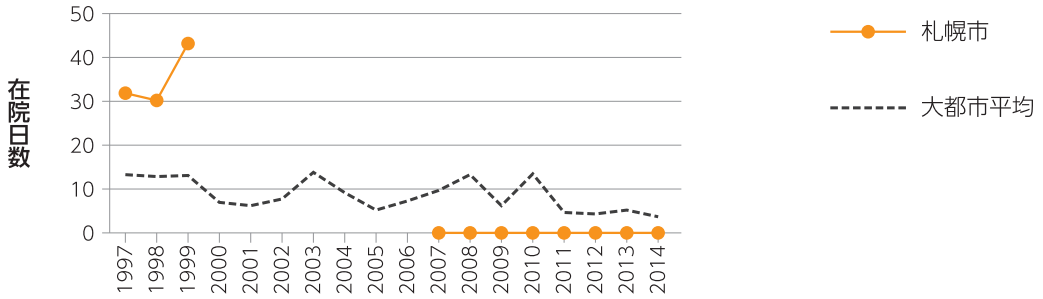
（厚生労働省「病院報告」）

43　年間在院患者延数／｛1/2×（年間新入院患者数＋年間退院患者数）｝
44　2000年までは「その他の病床」のうち「療養型病床群」を除いたもの、2001年から2003年までは「一般病床」及び「経過的旧その他の病床（経過的旧療養型病床群を除く。）」
45　2000年までは「療養型病床群」、2001年から2003年までは「療養病床」及び「経過的旧療養型病床群」

エ　感染症病床

感染症病床の平均在院日数は、大都市平均では2011年以降5日前後で推移し、2014年には3.6日となった。札幌市では2000年以降0日となっている[46]。

図 3-14　感染症病床の平均在院日数の推移

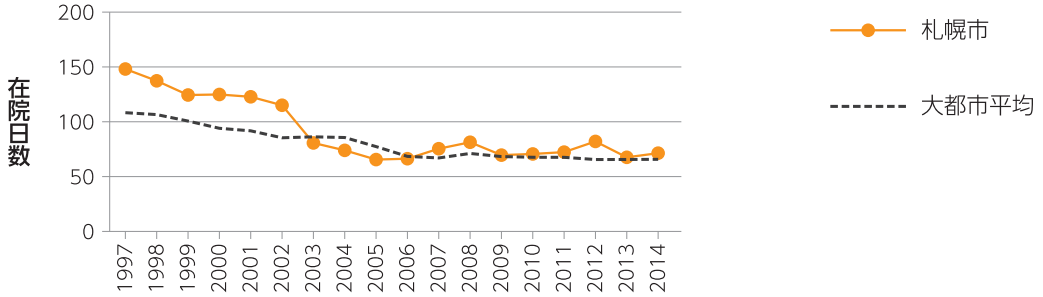


（厚生労働省「病院報告」）

オ　結核病床

結核病床の平均在院日数は減少傾向にあり、2014年の大都市平均では65.6日、札幌市では71.8日となっている。

図 3-15　結核病床の平均在院日数の推移



（厚生労働省「病院報告」）

46　札幌市では1999年3月に伝染病床が0床となり、2007年5月に感染症病床が設置された。このため、1999年は1月1日から3月31日までの入院患者の状況である。

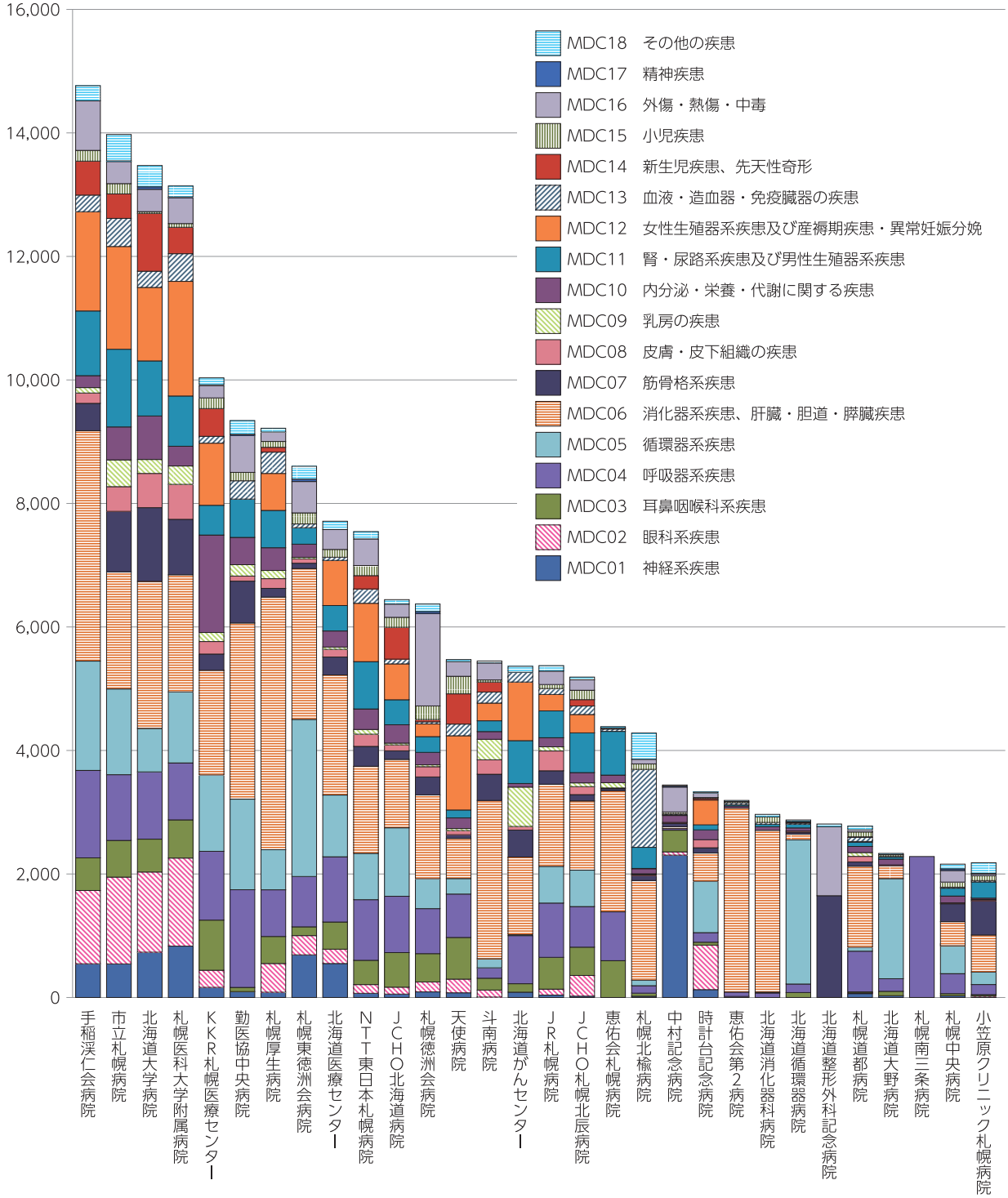
2　病院における急性期医療の提供状況

本項では、DPC[47]導入の影響評価に関する調査（厚生労働省）のデータを基に、急性期医療の提供状況を示す。集計の対象は2014年度の退院患者とした。

(1)　医療機関別MDC別患者数

患者数が多い方から30施設におけるMDC[48]の内訳を示す[49]。

図 3-16　医療機関別 MDC 別患者数



47 Diagnosis Procedure Combination（診断群分類）。14桁のコードで表され、傷病名、行われた医療行為、合併症の有無などの情報により患者を分類する。

48 Major Diagnosis Category（主要診断群）。臓器系統分類や診療科分類に相当するDPC分類コードの上位2桁であり、全部で18種類ある。

49 本項におけるMDC別患者数は「各施設の集計対象合計件数×施設別MDC比率」で算出し、各分類の症例数が10症例未満の患者数も含む。

⑵　MDC別患者数

この節では、図3-16と同様に算出したデータを基にMDC別に患者数が多い方から10施設における患者数を示す。

図 3-17　神経系疾患（MDC01）

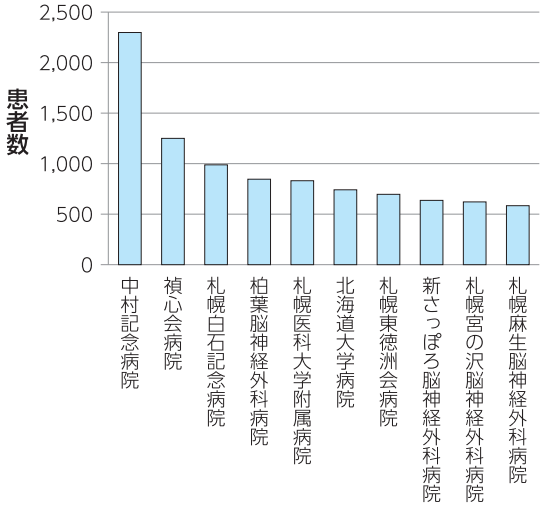


図 3-18　眼科系疾患（MDC02）

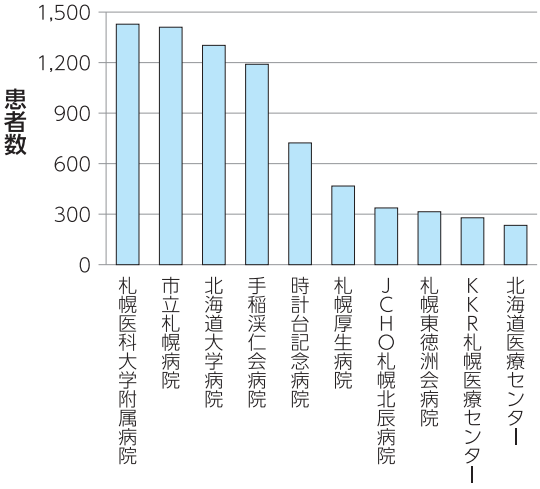


図 3-19　耳鼻咽喉科系疾患（MDC03）

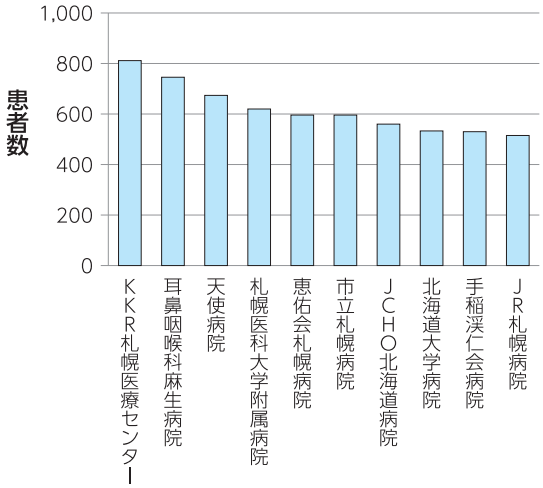


図 3-20　呼吸器系疾患（MDC04）

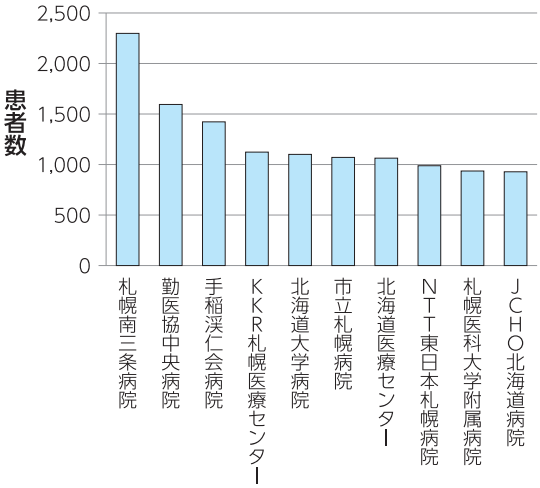


図 3-21　循環器系疾患（MDC05）

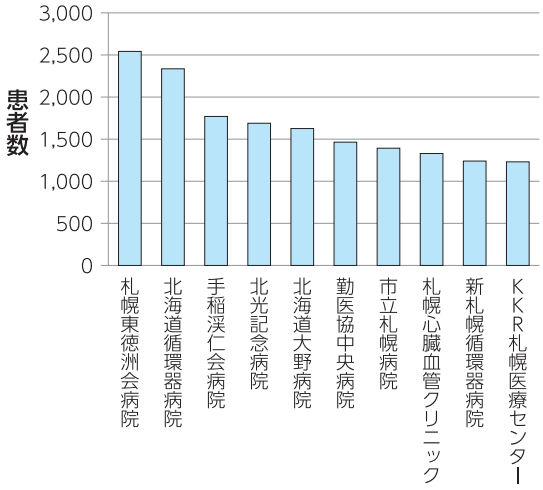


図 3-22　消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患（MDC06）

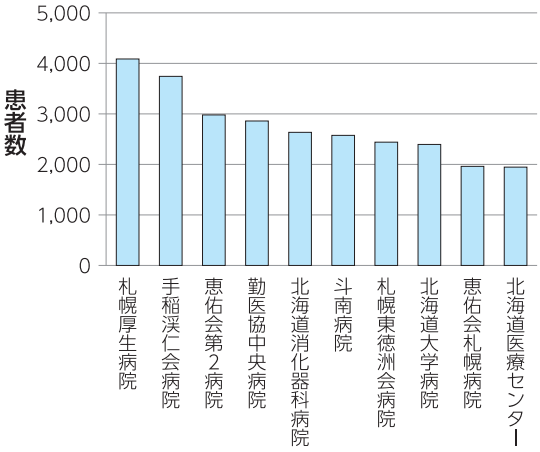


図 3-23　筋骨格系疾患（MDC07）

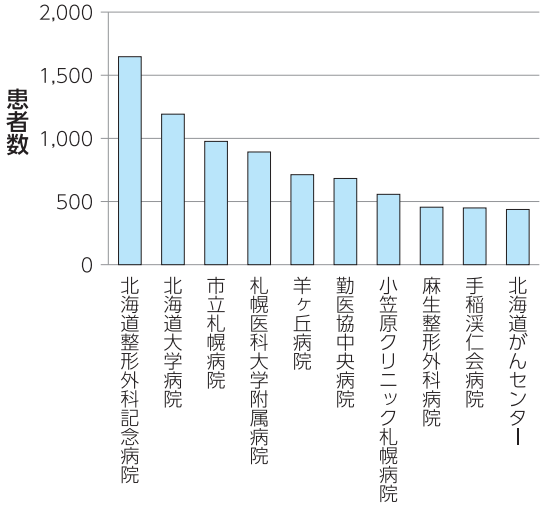


図 3-24　皮膚・皮下組織の疾患（MDC08）

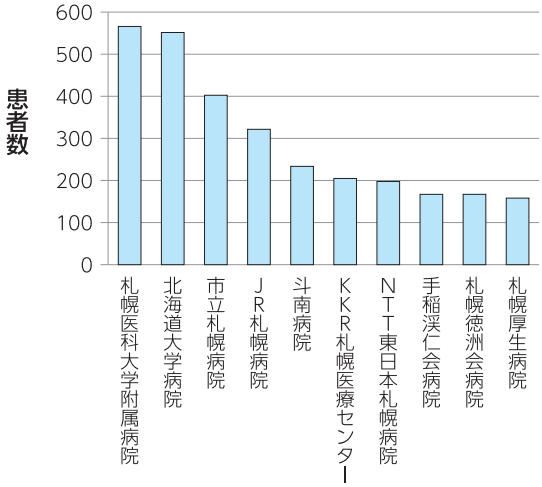


図 3-25　乳房の疾患（MDC09）

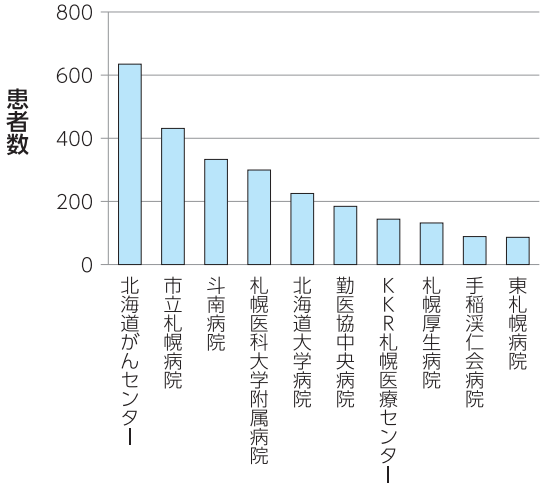


図 3-26　内分泌・栄養・代謝に関する疾患（MDC10）

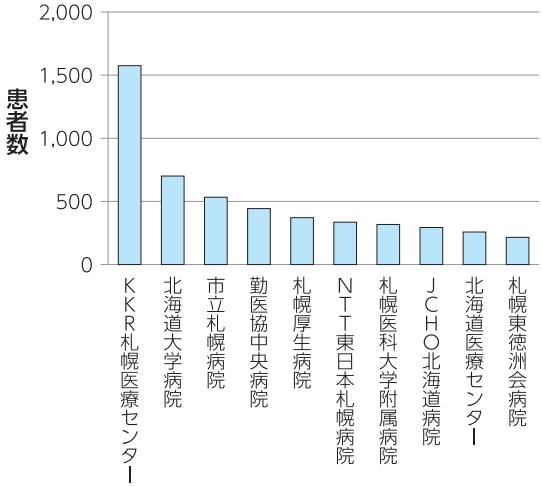


図 3-27　腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患（MDC11）

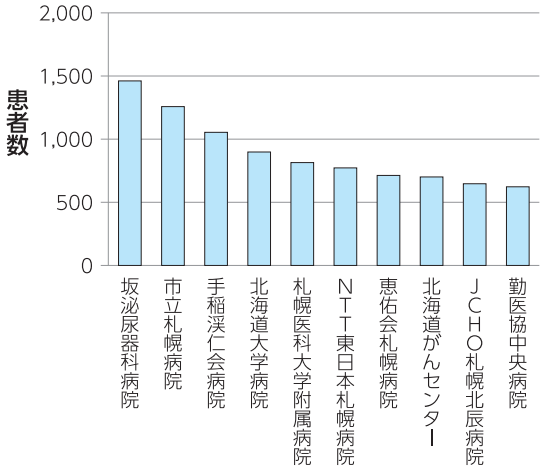


図 3-28　女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩（MDC12）

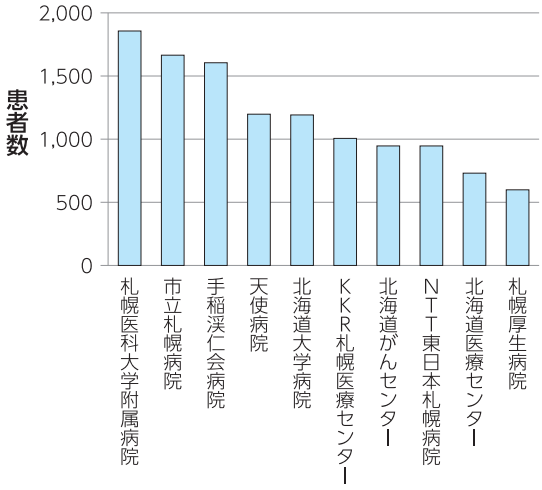


図 3-29　血液・造血器・免疫臓器の疾患（MDC13）

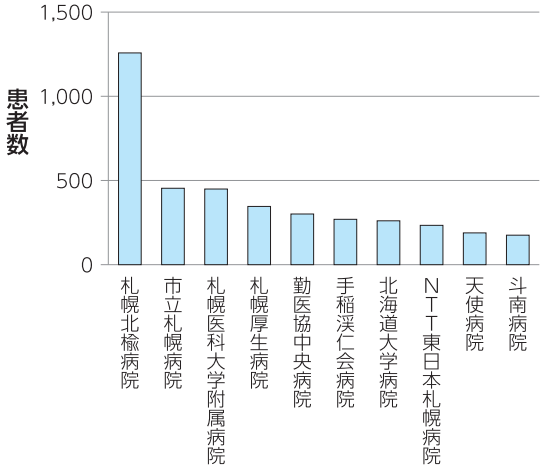


図 3-30　新生児疾患、先天性奇形（MDC14）

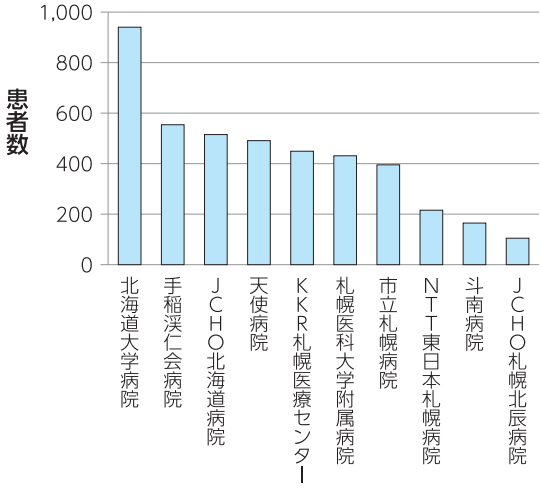


図 3-31　小児疾患（MDC15）

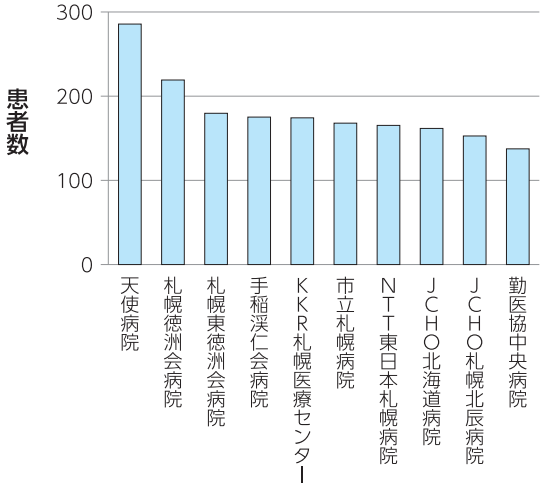


図 3-32　外傷・熱傷・中毒（MDC16）

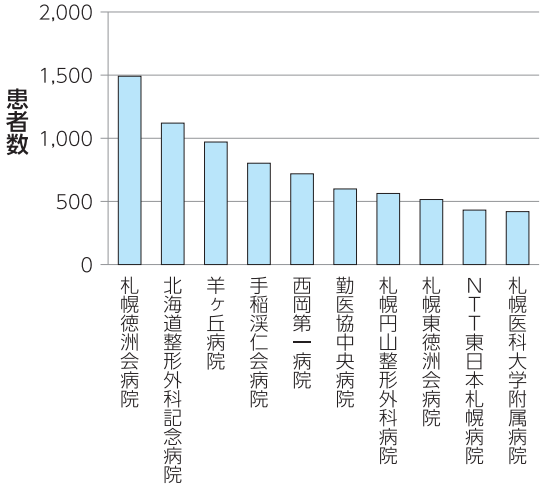


図 3-33　精神疾患（MDC17）

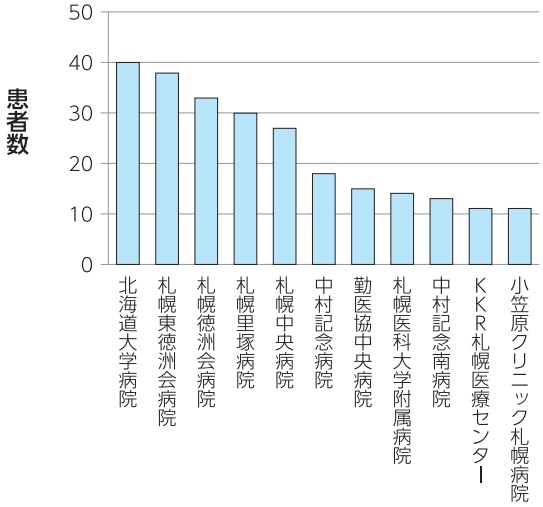
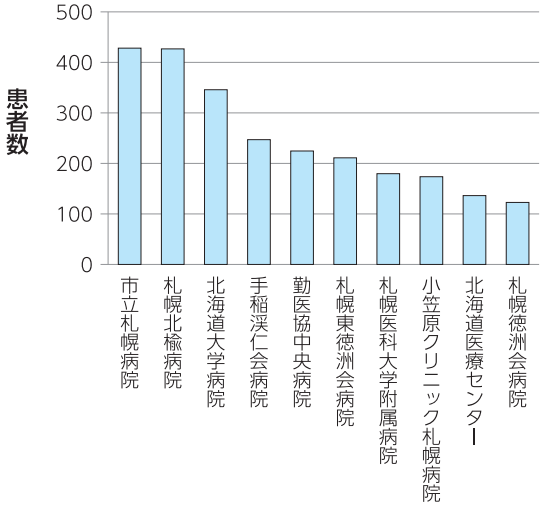


図 3-34　その他の疾患（MDC18）



(3) 急性期機能に関係する行為別患者数

この節では、手術[50]、化学療法[51]、放射線療法[52]、救急車搬送[53]、全身麻酔[54]の件数が多い方から10施設における患者数を示す。

図 3-35　手術を受けた患者数

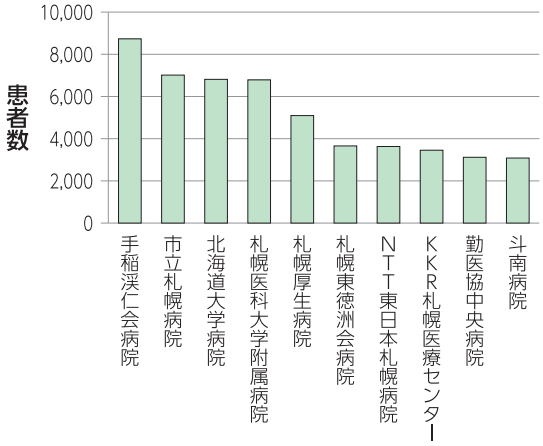


図 3-36　化学療法を受けた患者数

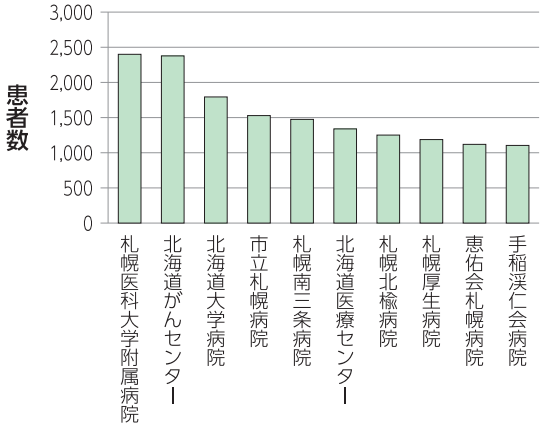


図 3-37　放射線療法を受けた患者数

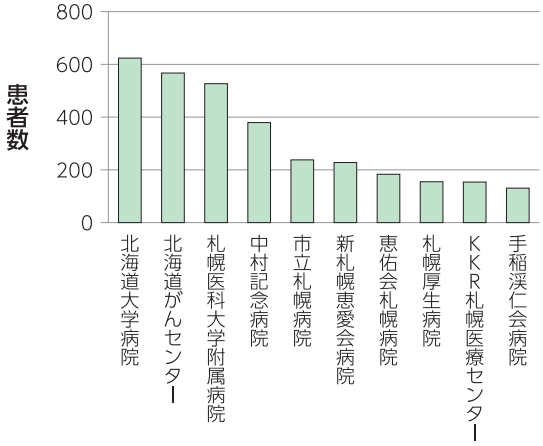


図 3-38　救急車搬送された患者数

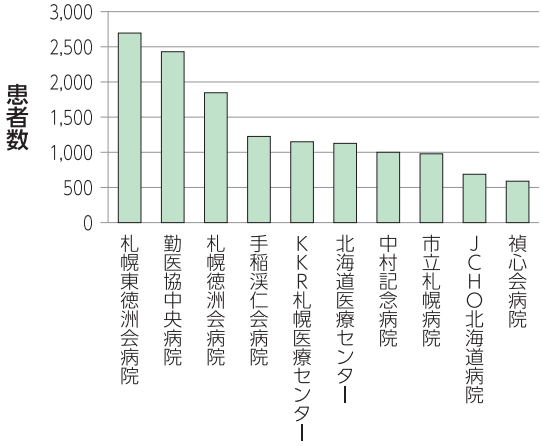
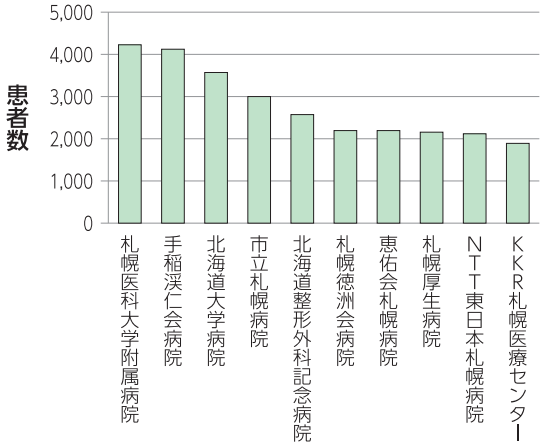


図 3-39　全身麻酔を受けた患者数



50 輸血（K920：医科診療報酬点数表の区分コード）、輸血管理料（K920-2）及び術中術後自己血回収術（K923）を除く。
51 傷病分類が悪性腫瘍に該当し、かつ抗悪性腫瘍剤を使用したもの
52 特掲診療料の放射線治療があったもの
53 救急車による搬送であり、かつ、入院経路が「家庭からの入院」「他の病院・診療所の病棟からの転院」「介護施設・福祉施設に入所中」のもの
54 開放点滴式全身麻酔（L007）、マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔（L008）のいずれかを行ったもの